

1月9日、目黒さつきビルにおいて「2026年旗開き」を開催しました。加藤中央執行委員長の年頭所感では、戦争をする者が多くいる中で「抵抗とヒューマニズム」の感性を養うことの大切さや、JR東日本の安全に対する問題意識、労働規制緩和への危機感などを訴えました。

そして、東日本大震災から15年を迎える中、勤務中の子息が津波で犠牲となつたことをきっかけに企業・組織の防災・減災に活かすための情報発信活動を取り組まれている「健太の教室」代表理事の田村孝行さんからご講演をいただきました。

当時、銀行で勤務中だった子息は、高台に避難することを訴えながらも会社の指示で職場の屋上に避難せざるを得なくなり、津波に飲み込まれてしまいました。「なぜ高台ではなく屋上に避難したのか」という理由を知るために企業と向き合い続けてきた中で、自



1月9日、目黒さつきビルにおいて「2026年旗開き」を開催しました。

多くの方にご参加いただき、2026年をスタートできることができました。

その後、高橋書記長による基調報告を行うと共に、東北協議会、首都圏協議会、美世志会、OB会、青年連絡協議会から新年のあいさつをいただき、2022年JR総連春闘への決意と、「責任追及から原因究明へ」の安全哲学で立ち向かうことを確認しました。また、「新春の集い」にも

然災害だけではなく過労などの様々な労働災害で命を落とす労働者が多いことを知り、「いのち」こそ何にも代えられない宝であることを実感したと言います。ご講演を通じて防災意識を高めるための行動の重要性と、「自分の意見を言える力を持つこと」の大切さを全員で学ぶことができました。

その後、高橋書記長による基調報告を行うと共に、東北協議会、首都圏協議会、美世志会、OB会、青年連絡協議会から新年のあいさつをいただき、2022年JR総連春闘への決意と、「責任追及から原因究明へ」の安全哲学で立ち向かうことを確認しました。また、「新春の集い」にも

現地に立ち、慰靈を行いました。

初めて現地に立った参加者からは、「事故の

面影はほとんどなく、案内されなければ事故の

悲惨さを感じ取れないような状況です。現地に立ち、状況を語り継ぐことの重要性を認識しました」と感想が述べられました。

また現地で、ご遺族の「慰靈の言葉」を読み、立ち、状況を語り継ぐことの重要性を認識しました」と感想が述べられました。

事故から20年、改めて5名のお客さまが「な

つたことを捉え返し、我々は「命」を最大の価値基軸に安全風土の再確立を目指して職場で語つていかなければいけないと強く感じました。

あらためて「命」の重さを再認識し、安全第

いただき、全国の職場実態や発生した事象、会社の姿勢などを出し合いました。全体討論を通じて、系統や幹在といった違いを越え、安全に対する認識の一貫と問題意識の共有を図ることができました。

集会後には懇親会を行い、仲間同士の絆を深めることができました。新幹線協議会は今後も「責任追及ではなく、原因究明を通じた安全風土の構築」をめざして活動してまいります！



## 新幹線協議会 「安全第一！職場からの原因究明で安全を創りだす12・20安全集会」を開催！

12月20日、新幹線協議会は東京地本会議室において「安全第一！職場からの原因究明で安全を創りだす12・20安全集会」を開催しました。当日は、40名の仲間が結集し現状認識の一致と現場から真の安全風土を創りだすための議論を行いました。

開会に先立ち、伊藤新幹線協議会議長より「会社は労務管理を前面に安全管理を行っている。一方で、私たちも会社の姿勢に慣れてしまっていないだろうか」と、問題提起を含めた挨拶が行われました。

集会では、9月に開催された「国際鉄道安全会議」でJR東労組が提言した内容について報告があり、現場から実態を検証し声を上げていくことの重要性が語られました。

全体討論では、本部運輸車両部会三ヶ田会長、堀江事務長にも参加して

いただき、全国の職場実態や発生した事象、会社の姿勢などを出し合いました。全体討論を通じて、系統や幹在といった違いを越え、安全に対する認識の一貫と問題意識の共有を図ることができました。

集会後には懇親会を行い、仲間同士の絆を深めることができます！

12月25日、5名のお客さまが「こなり、お客様31名と乗務員2名が負傷した「JR羽越本線脱線事故」から20年を迎えました。中央本部・信越地本・本部運輸車両部会からの代表は、現地に立ち、慰靈を行いました。

初めて現地に立った参加者からは、「事故の面影はほとんどなく、案内されなければ事故の悲惨さを感じ取れないような状況です。現地に立ち、状況を語り継ぐことの重要性を認識しました」と感想が述べられました。

また現地で、ご遺族の「慰靈の言葉」を読み、立ち、状況を語り継ぐことの重要性を認識しました」と感想が述べられました。

事故から20年、改めて5名のお客さまが「な

つたことを捉え返し、我々は「命」を最大の価値基軸に安全風土の再確立を目指して職場で語つていかなければいけないと強く感じました。

あらためて「命」の重さを再認識し、安全第

一に判断することが求められています。その様な中、命を脅かす事象が繰り返し発生していることから、原因究明ができるているのか、責任追及やハザードの除去のみにならないか点検する必要があります。

JR東労組は、安全風土の再確立に向けて職場から安全議論を開催し、「責任追及から原因究明へ」の安全哲学をもとに、組織強化・拡大することをめざしてたたかっていきます！

**JR羽越本線脱線事故から20年  
献花・慰靈を行う**

12月10日、東京地本会議室においてJR東労組ステーションサービス協議会「第13回定期総会」を開催しました。この1年間で、3名の組織拡大を行い、総会には新規加入の仲間も参加してくれました。

総会スローガンとして「一人でも多くの理解を得て、パワーラ・セクハラ・不当労働行為に対する、なんでも相談できる組織をつくり出そう！」「安全」を第一に考え「組合員の健康」と安心して働く労働条件の向上等の運動方針が満場一致で承認

## ステーションサービス協議会 「第13回定期総会」

されました。

意見交換では、年末手当の総

括やJR東日本グループ内で問

題視されているパワーハラ・セクハラ・不当労働行為についてJESS社内でも発生している事象を共有しました。特に、一人勤務駅での苦労や課題、職場内で発生している不当労働行為を許さないたたかいの認識一致をしました。出された意見は、申1号交渉として会社に申し入れ、改善をめざします。

JR東労組ステーションサービ

